

NEWS



特定非営利活動法人 しみん基金・こうべ

〒651-0095 神戸市中央区旭通1-1-1-203 (サンピア2F)

TEL078-230-9774 FAX078-230-9786

E-Mail kikin@stylebuilt.co.jp URL <http://www.stylebuilt.co.jp/kikin/>

しみん基金・KOBÉの灯火は
心の一隅を照らす

しみん基金・KOBÉの審査会場でいつも思うことがある。というよりは、こみ上げてくる感情を抑えることができないといった方が近い。それは、人間としての尊厳を保つために社会的な支援を必要としている人たちがこれほど沢山いるということ。そして、この人たちの気持ちに応えようとする真摯な人たちがこれだけいるという事実についても圧倒されるからである。

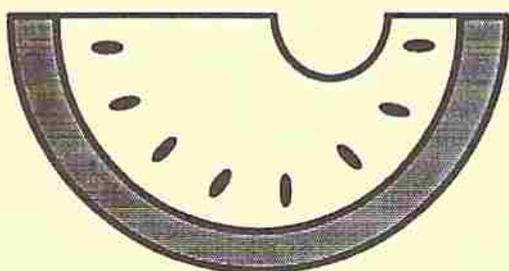
私は研究者としての道を選び、その道筋を通して「世のため人のため」に役立とうと及ばずながら努力してきた。この選択が間違っていたとは思わない。また思いたくもない。いまさら生きてきた人生は取り戻せないし、これからも進むほかはないからだ。しかし、知らず知らずのうちに物事の全てを「頭で割り切る」ような習性が身につけてしまったことに愕然とする。客観的に物事を考え、見通し、そして判断するという思考スタイルがあまりにも染みついてしまっているのである。だからふだんは別に矛盾を感じないが、審査会場に来ると、このような自分の偏った発想や行動様式の薄っぺらさを嫌うほど思い知らされる。

会場の人々は「頭」ではなく、きつと「心」で行動しているのだから。「できそうだからやる」のではなく、「やらずにはいられないからやる」という心境なのだろう。でなければ、あのようなとても出てきそうにない計画や行動方針が出てくるはずがない。震災時に地の底から沸き上がるような勢いで現れたボランティアも恐らく同じ気持ちだったにちがいない。

普通なら、現実が厳しくなればなるほど人は萎縮する。人間の持つ一面である。しかし、困難であればあるほど奮い立つ人もいる。そこには、人間の持つもう一つの可能性が示されている。しみん基金・KOBÉの心の灯火は、1月17日の鎮魂の灯火でもないし、年末のルミナリエの輝きでもない。それは人間の心の一隅を照らす灯火であり、人びとの限らない可能性を指し示す道標である。

審査委員長 広原盛明

“暑中お見舞い
申し上げます”



目次

- ▼平成13年度第1回助成事業
- ▼平成12年度第2回助成事業
- ▼もいちど出会えて
ありがとう支援事業
しみん基金・KOBÉ
カードのご案内
- ▼理事の横顔
- ▼ご寄付いただいた方々
- ▼お知らせ・あとがき

平成12年度第2回助成事業

みなさん助成金をどのように使っているのでしょうか？
10月1日から3月31日に行われた事業の報告です！

特定申請団体

▼プラザ5運営委員会

貴職を初めとした多くの皆さんのご支援で、2000年4月2日にプラザ5をオープンすることが出来、先秋以降も活動を続けることができました。具体的事業としては、ふれあい喫茶・ふれあい食事会・パソコン教室・絵手紙教室・ビデオ上映会・震災慰霊碑のタイムカプセルに納める写経の会と座禅・手芸等とサークル活動・健康問題や環境問題に関する勉強会・ボランティア看護士による健康チェック・他施設の見学会・家庭生ゴミを堆肥化し花壇づくり・高齢者宅の訪問活動・盆踊り、餅つき、お月見等諸行事開催・台湾震災被災者との交流・各学校生徒児童や民間団体、企業、行政関係者の研修受け入れ・震災ボランティアの研修・交流・震災犠牲者遺族の聞き取り調査協力・御菅地区合同慰霊祭開催や慰霊碑建立の支援等々を行ってきました。従来は町を越えてのお付き合いというのがあまり無く自治会の範囲でまわっていた交流がプラザ5の活動を通じて徐々に融合していつているようです。下町の濃い密度の関係で成り立っている社会が震災を期に住民同士の支えあい、交流の大切さが自覚されるようになってきたようです。

被災地の中でも最も深刻な被害を受け、住民もバラバラになりコミュニケーションすら崩壊された状況の中で、人が触れあう交流しあうことの大切さを如何に

実行するか考えた結果としてのプラザ5開設で住民の力を信じてこのような交流スペースが実現し、維持できている事は、被災地でもあまり例のない事です。しかも単にボランティアや外部の人間のみが活動するのではなく、主体を如何に住民に置くかということの最大の目的をおいての取り組みです。まだまだ生れたばかりで、しかも何の前例もない活動です。今後とも貴職を初めとした多くの皆様のご支援を心

▼ふれあい祭りプロジェクト

☆ハット神戸協の浜

給食サーピスについて☆
新しい町の中で高齢者が、お互い隣にだれが住んでいるか、わからない者同士が給食サーピスを足運ぶことにより、一緒に買い物に行ったり、部屋に遊びに寄ったり、「今日は市場の中のどこそこが安売りよ」と、会話が飛びかい、「そんな様子を見ているとうれしくなる」住民が役割を決めて、出来る人が出来ることをやっています。

☆フレール長田

ふれあい喫茶について☆

復興住宅の中で最後に、仮設から引越されコミュニケーションが困難な中で、ふれあい喫茶で、お客さんとコーヒーを飲みに来ていた人が、ボランティア参加となり、神戸市より生きがい型ティサイスを毎週水曜日に行うことになりました。少しずつですが、コミュニケーションができてきつつあります。

一般申請団体

▼療育スタッフGネット

助成金をいただいたので、参加者（ボランティアを含め）を新規で受け入れる事となりました。その一人、19歳の数少ない女性参加者（知的な障害を伴う重複のある人）のお母さんからのFAXを転記し、感想に変えさせて頂きます。

「ありがとうございました。昨日は本人、作業所のメンバーと出掛けると思っていたようです。でもTの笑顔を見ると、ほっとしたのか（違うけれどまた違った友達と外出しよう！）Cも笑顔になっていました。「たっ！」と大きな声で帰って来ました。いつものように祖母（私の母です）が出てきて、いつものように祖母は質問します。「Cちゃん、誰が行ったの？」「何人？」「どこへ行ったの？」「電車に乗った？」「何食べた？」こうなるとCも暗い顔になります。

仕方ないので「CちゃんTとY君とお姉ちゃんで行ったんやね！」と私は口封じ。Cは「そうやねん」「Y君おつたねん」と口を開いてきました。Tのこと、たこ焼きのこと、楽しそうに話してくれました。又宜しくお願いします」

以上、参加者がかつ若い女の子さんのため、まだまだお母さん保護者の方々の関与大です。



▼マザーサポートの会

助成金を受けたことで、今の活動を充実させる方向に発展させることができました。

CPの会（重度肢体不自由児を持つ親の会）のサポートだけでなく、知的障害を持つ親たちとの交流会（子供の養育を考える会）も定期的に実施され、先輩の意見や一般の親（サポーター）との交流も始まった（ぼっばたいむ）。スタッフは、事業内容が増えたことで、事務作業が増え負担が大きくなっていく。実質働けるスタッフを確保してボランティア活動のさまたげとならないように考えていきたい。発足一年を経た今年に更に飛躍の年としたい。

会計が不得意なスタッフばかりで請求することになっていないため、交通費など自己負担でまかなったため、会全体の支出も少なく実質経費をあらわしていないと思う。これを機会に会計処理の簡素化に取り組みたいと思う。しみん基金から助成金を受けられたことで会の意義を理解してもらってノーマザーゼーション推進に力を入れたいと思います。



活動のようす



活動のようす

▼西宮地域たすけあいネットワーク

日常的に介護にたずさわる人（介護者）の直接的ケアと精神的自立、自己啓発、社会参加の交流など、在宅介護家庭の孤立化を防ぐ取り組みとしてのプログラムは、昨年4月から試行されています。今までとかく注目されることになった『介護者』へスポットライトをあててきました。特に妻や娘など介護者が女性であればなおのこと、家庭の中で介護に追われ社会的な場に出る機会が少なく自分自身の生活や生き方については目をつぶってきた傾向が強いようでした。

1年間のプログラムを通し、確実に参加者はネットワークを得、自分自身を見つめなおすチャンスを得ました。今、社会的に運動を広げるための原動力として当事者組織の立ち上げを始めるに至りました。この間、まだまだレスパイト事業としては準備が一定とびには進むことはできませんでしたが、介護者の『かけこみ寺』としてのステーション作りの準備に携わる人達のすそ野がぐんとひろがってきています。この度『基金』をいただくことにより社会的責任と使命を感じつつ、自身を持って事業をすすめることができました。ありがとうございます。今後とも継続的な見守りとアドバイスのご支援を頂ければと願っております。

▼在日韓国青年連合兵庫地方協議会

あらためて、同基金より助成を頂いてありがたく思っています。また、お金を頂くことのみならず私たちの事業そのものに賛同してくださったことに感謝しています。

今回はコリアンセミナーの事業費という形で申請いたしました。実際は神戸、尼崎、の事務所への家賃を含め、青年たちの手でまかなっており、自分で会費・活動費を支払いながらボランティアを行う献身的な青年スタッフの存在があるからこそ成り立っているのが実情です。自分たちの事業の意味を感じてゆえにこの事業を広げたいと考えているのですが、そのような中にあって、同基金のような存在は非常に貴重であると考えています。



活動のようす

▼W・Sひようこ運営委員会

DV被害は、社会で取り組むべき問題であるとの認識は高まりつつあるが、被害者支援に対する助成金は少ない。そのため、同種の申請が殺到し、助成金獲得が難しいのが現状である。貴団体に助成頂いて非常にありがたかった。☆DV防止法が整備されつつあるが、現段階では被害女性が公的に受けられるサービスは少なく、住居や経済的な問題で八方ふさがりである。新たな生活をスタートするための情報の収集や支援システム整備への働きかけに取り組みんでいきたい。

法整備や、DVに対する啓発、関係職員への研修などの必要性が痛感される。☆DVホットラインでDVに関する悩みの相談や情報提供（弁護士紹介福祉情報など）を行っている。また、必要に応じて面接相談を行い、相談者一人ひとりの生活再建に必要なサポートを提供している。2000年度前期と比較すると、電話相談件数、面接相談件数、緊急一時避難場所の利用で、件数としては電話相談がおよそ20%増、面接相談と緊急一時避難場所の利用は、ほぼ同数だった。

☆今回、事務所と緊急一時避難場所の家賃6ヶ月分の半分を助成していただいた。事務所はW・Sひようこの活動の拠点であり、緊急一時避難場所といえる。両方の（場）を維持できたことは、安定した事業運営という点から非常に大きな支援だった。

☆啓発講座の開催により、DVは犯罪であるとの理解を深め、DVをなくしていく活動の一翼を担うことができた。☆連携先の関係機関を拡充することができたが、今後もさらにより関係を深めていくことで、よりよいサポートを行うことを目指します。

▼小規模作業所ラムア準備会

今回の就労支援講座（全三回）では貴会の助成金を受けることができ、計画のとおり東京より講師を招き大変有意義な学習会を開催することができました。私たちは精神障害者の就労支援をしっかりと取り組みたいと考えてきましたが、その際スタッフの学習が何より必要です。先進的な実践に学ぶことのできる考えを神戸の関係者が知ることで可能性が広がります。また精神障害者にとっても実際にそのサービスを受け働く精神障害者の姿に触れることで（今回はビデオによる紹介）なっつても働けるんだ」と可能性を感じたようです。既存の作業所の利用者が講座でSSTのロールプレイに参加し、喫茶店作業所で働きたいと動き出した方がありました。私たちの目的は、精神障害者自身がエンパワーされるといふ効果でした。これは期待以上です。また作業所職員もSSTのプログラムの進め方が、就労だけではなく作業所内での精神障害者へのケアの質を高めるとして興味深く話を聞いていました。今後の参加者の活動に期待が持てるように思います。助成頂いたから言う訳ではありませんが、申請団体が理事の皆さんや他の申請者の前で活動計画についてプレゼンテーションをするのは良い方法だと思えます。理事の方が通信で書いていたと思えますが、活動への助成団体、市民の方にしっかりとその必要性や意義を伝えることが大切で、私たちがもっと訴える努力、力を持つことが必要だと考えます。



平成13年度第1回助成事業

助成コンペ
にわか司会者てんまつ記



しみん基金・こうべの公開審査会は年2回行われますが、それには理事と事務局の膨大な労力がつき込まれています。毎回、おおむね30〜40団体の申請受付が済むと、各理事に調査を割り振り、各理事は実際に当該団体に赴いてヒヤリングし、団体の実状と助成の必要性についてチェックし、レポートを作成します。このレポートは公開審査会にあたり審査員の資料となるので、理事も客観的にレポートする事を心がけています。

しかし、ヒヤリングに行った理事の話の聞くと「どうしても自分がヒヤリングした団体には情が移り、審査会に合格して欲しいと思ってしまう。」とのこと、これが、審査員を理事とは別に、基金の外部の人にお願している理由です。こうやって、少しでも客観性を保つためのしくみをつくっています。

さて、平成13年度第1回の助成事業の公開審査会は、6月15日コミスタこうべで行われました。余談ですが、このコミスタこうべは、JR三宮東口から西国街道を東に徒歩15分ほどにある旧吾妻小学校を改装して生涯学習支援センターとしたもので、多様な市民活動でにぎわっています。震災当時は、2000名以上避難者が起居していたところで、震災を伝える有名な唱歌「しあわせ運べるように」も、ここで生れました。

公開審査会の運営はタフな仕事です。総額400万円の一般助成に26団体、総額50万円の特定助成（今回は青少年の健全育成目的）に3団体がエントリーしており、午前中は設営と打ち合わせ、午後一杯かけて、1団体持ち時間4分で次々とプレゼンテーションしてもらい、審査員投票があり、合格が決定します。

審査委員長は京都府立大学の広原先生、審査員に、立木、島田、石東、松村、松宮、山口、梁、朴木、小柴、清水の諸先生方。審査のキープポイントは「草の根の市民活動団体の先取性のある事業に対して助成する」です。最近では団体側も色々な場でプレゼンテーションの経験を積んできているのでしようか、4分の持ち時間をオーバーする団体は殆どありません。審査途中、ハプニングがありました。

「ルックスイン神戸実行委員会」が、プレゼン後、自ら助成申請を取り下げたのです。「私たちよりもっと助成を必要としている団体がたくさんいる」との理由です。このときは、会場から拍手が沸き起こりました。

審査については、一般助成については、第1回投票では決まらず、第3回投票まで行つたのですが、審査手続きについて遺漏もなく、順調に審査会を終えることができました。紙面を借りて御礼申し上げます。ただ、助成資金が今回の450万円が、4500万円あれば、殆どの団体に引き渡つたのにと考えると、NPO助成財団の使命は「やはりお金だ」ということでしょう。もっと理事全員が、がめつくならなければ！

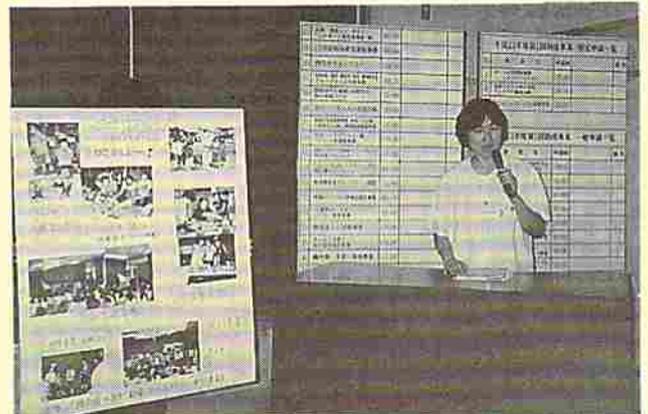
監事 森田拓也

◆ 合格 団 体 一 覧 ◆

団体名	事業名
協働作業所さくら	作業所の改修工事
NGO ベトナム in KOBÉ	在日ベトナム人の支援活動
サポートステーション灘・つどいの家	サポートステーション灘・つどいの家運営事業
御影倶楽部	精神障害者グループホーム開設
喫茶赤とんぼ作業所	喫茶赤とんぼ作業所
ウイズ ネイチャー	ほくらは自然体験隊～ホッパーズクラブ～
神戸垂水おやこ劇場	子どもフェスティバル開催事業



合格団体の皆様



プレゼンテーションのようす

もいちど出会えてありがとう支援事業

神戸21世紀復興記念事業
2001年1月17日
9月30日

神戸21世紀復興記念事業協会より業務委託を受け、昨年10月より受付を開始した「もいちど出会えてありがとう支援事業」は行政からNPOへの初の助成委託事業として注目を集めました。事業の計画段階より記念事業事務局との話し合いを持ちながら、よりわかりやすく、且つ内容のある助成事業とするために議論を重ねました。単に助成するだけではなく、助成を通じて確実に神戸の街の復興と震災当時にお世話になった方々への感謝を表して頂ける事業にしたいと決めたため、ルールづくりを頭を悩ませました。また、それぞれのケースにフレキシブルに対応できるNPOならではの助成とすることも考え、申請時の対応にも細心の注意を払いました。

当初、申請者が市民活動団体とは異なるために様々な戸惑いがありました。結果として、自治会、まちづくり協議会、婦人会等、これまで、繋がり無かった諸団体と触れ合う機会が出来たこと、そして、それらの団体を通じて市民の方々に周知を図れたことは当基金にとってプラスになったのではないかと考えます。また、それぞれの団体が事業終了後に事業報告書とともにお礼状を下さり、助成する側としても、この上ない喜びを感じました。

昨年10月から3回にわたり申請を受け、合計39団体に助成を実施しました。それぞれの申請事業の内容は様々でしたが、震災当時にお世話になった方々を神戸の地にお招きしておもてなしをしたという気持ちを感じました。震災から6年、あの時、誰もが感じた市民の力は消えることなく、神戸の街を支えていることを痛感しました。市民とNPOと行政が今後もパートナーシップを持つて神戸を支えて下さることを信じたいと思います。



事業のようす

皆様から
いただきました
感想の一部を
紹介致します。



◆貴重な浄財を賜わり、運営できたことを会員一同感謝いたしております。誠にありがとうございました。
(矢元台むつみ会)

◆6月28日(木)『ふれあいミニ動物園で逢いましょう』も予定通り、お天気にも恵まれ盛大に終わり、皆さんとの再会も楽しく、子供・動物のふれあいに感動もし嬉しかったです。ありがとうございました。
(高良 かね子)

◆しみん基金こうべより助成金をいただいた事業を実施、完了致しましたのでご報告致します。参加者全員に喜んでいただきました。参加出来なかつた人も含め、ぜひ又実地してほしいとの要望が寄せられています。(せとふれあいセンター有志同好会)

◆加茂町の皆さんに、まだ復興途上ですが「元氣になった神戸の町を見てもらう」ことで、ささやかながらお礼の気持ちをお伝えできたのではないかと考えております。又、サンテレビの御好意により当日参加できなかった加茂町の皆さんに、夕方のニュースで出会ひの式の様子を放映していただきました。今後も、地域・婦人会・小学校の交流が広がるようがんばっていききたいと思っております。
(加茂・池田交流会実行委員会)

しみん基金・こうべ
カード発行!!!

しみん基金・こうべではオリエントコーポレーション(オリコ)と提携し、クレジット機能付き(マスターカード)のしみん基金・こうべカードを発行することになりました。

このカードはカード会員になるとしみん基金・こうべの賛助会員となり賛助会費は年1回自動引き落としされますので非常に便利です。また、カードの手数料や使用料金の一部がオリコより寄付される仕組みにもなっております。もちろん通常のクレジットカードとしての様々な特典も付加されています。

これまで、企業や財団などの団体がこの様なカードを発行しておりましたが、NPOとしては非常に稀であり、当基金の信用性が確保されていることを証明するだけではなく、今後のNPOを支える仕組みづくりの一助となるよう、先駆的な試みであるといえます。直接的な寄付ではなく、生活の中で自然に社会貢献(市民活動支援)が出来るカードです。

当基金ではこのカード発行することにより、より多くの市民の方々に周知していただくことと運営を支えていただくことを期待しています。このニュースをお読みの皆様もカード会員のお申し込みを心よりお願い申し上げます。お申し込みは事務局までご連絡をお願い致します。



理事の横顔



弁護士 戎 正晴

神戸生まれの埼玉育ち。司法修習生として来神して以来神戸に住み続けている15年目の弁護士です。震災後は一弁護士という立場で被災地の復興住宅やまちづくりの支援に取り組んで来ました。今も市のまちづくりアドバイザーや県のNPO大学の講師、被災者支援会議Ⅲのメンバーなどを務めています。

話をそのまま日本に持ってくるのはかなりの無理があると思います。全てのものが流行の中にししか居場所のないわが国のこと、今は「市民」「市民社会」「協働」「参画」などが流行っていますが、考えれば考えるほどよくわかりません。情緒的という点では「八紘一宇」を叫ぶのとあまり違いがないような気がします。解放の理想が全体主義で終わったように無理をして大きな物語を追いかけられないのは弊害の方が多いのかもしれませんね。たしかなのは公開審査会に見られるように、小さな単位で様々な活動が始まっているということ。

しみん基金・こうべでは難しいこととは考えず、それら一つひとつの活動を支援していきたいですね。(談)



常務理事 戎 正晴

お知らせ

★「山の郵便配達」(9/11〜21)

会員数とご寄付の報告

(2001年3月〜8月)

◆正会員

個人43名 団体6名 個人96名 団体21名

◆賛助会員

◆寄付者・募金合計金額 249,204.2円

◆寄付者・募金一覧(敬称略・順不同)

バンブーCOOP/共働作業所さくら 1.17 KOBEに灯りを/高橋孝太郎 「草地賢一さんの仕事刊行委員会」 新神戸オリエンタル劇場/佐藤庸安 市民活動センター/神戸/芝田道男 兵庫県社会福祉協議会/山口一史 株式会社さくら総合研究所緑会 ボランティアサークル・かぼちゃ KCCライフプランセミナー/田中瑞穂 被災地NGO協働センター/小川良一 三光教会/中島秀男/阿部圭宏/実吉威 島村明子/白水士郎/廣内清人/源水進 皆様、ありがとうございました。

◆あ と が き◆

今年夏は本当に猛暑です。暑さに負けずに仕上げた二ユース、如何でしたか? 私も某国の元首のように列車で豪華な旅行を楽しみたものです。せめて、温泉にでも!。そう思いつつ毎日同じ事の繰り返しです。変化を求めたい。旅立ちとう! (H)

「しみん基金・KOBE」の運営を支えて下さる賛助会員と寄付を募集しています。

個人会員 年間 3,000円
賛助会員 年間 10,000円



お申し込みは電話・FAX・電子メールなどで、お名前・住所・電話番号をお知らせ下さい。

振込口座 三井住友銀行 三宮支店 普通7965892
みなと銀行 本店営業部 普通1597921
近畿ろうきん 神戸支店 普通4161854
郵便振替 00930-6-310874
口座名義 「しみん基金・こうべ」